

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 12 月 25 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (12/25 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系:約 1.9m ³ /h	22.4	107.2 kPa abs	A系: 0.10 vol%
		給水系:約 2.5 m ³ /h			B系: 0.08 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系:約 3.6m ³ /h	36.2	5.82 kPa g	A系: 0.06 vol%
		給水系:約 2.0 m ³ /h			B系: 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系:約 3.4m ³ /h	36.0	0.27 kPa g	A系: 0.20 vol%
		給水系:約 2.0 m ³ /h			B系: 0.18 vol%

* 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機】

- ・12/23 5:41 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレィ系からの注水量は約 3.3 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (12/25 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.5
2号機	循環冷却システム	運転中	12.3
3号機	循環冷却システム	運転中	11.1
4号機	循環冷却システム	運転中	22

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	12/21 13:52 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	12/18 14:00 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	→ 仮設タンク	12/25 10:00 ~ 15:00 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (12/25 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
 - H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
 - H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
 - H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
 - H24/11/22～12/16 港湾内の物揚場に係留しているメガフロートについて、今後、港湾内での工事や資機材搬入のために輸送船等を着岸させる必要があることから、港湾内北側に移設するにあたり、海への放射性物質漏えいリスク低減のため、メガフロートに貯留している低濃度の放射性物質を含む溜まり水の移送を実施。
- H24/12/24 8:45 メガフロートの係留を解き離岸し、12:30 に移設(港湾内北側へ約 270m)が完了、仮係留を実施。
- H24/12/25 9:50 に本係留を実施。
- H24/12/25 11:04 頃、5・6号機低レベル滞留水タンク周辺のサンプリング配管の出口より、水が漏えいしていることを当社社員が確認。サンプリング弁を増し締めしたところ、漏えいは停止。漏れた水は、1m×1mの範囲で砂利に染み込んでいるが、周辺に排水溝等はなく、外部への放出はないと判断。
- なお、漏えいの原因は、5・6号機の低レベル滞留水移送配管のポリエチレン管化作業後の漏えい確認を行った際、漏えい確認実施前にサンプリング弁が閉まっていることを確認していたものの、十分に閉まっていなかったことから漏えいしたものと推定。また、サンプリング配管に溜まっている水の分析を行った結果、全ガンマ線放射能濃度は $4.3 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$ であり、10/3 にサンプリングした5・6号機滞留水タンク水の分析結果 ($6.6 \times 10^{-1} \text{Bq/cm}^3$) と差は確認されず。その後、漏えい量は、ポンプの流量 ($20 \text{m}^3/\text{h}$) および漏えいしていた時間(2秒)から換算して最大でも約 10 リットル程度と評価。

以上